

密

室、と呼びたく
なる空間で、テ
イラーは客のか
らだのあちこち
に触れながら、
いったい何を話しているのか？
「右ですか？ 左ですか？ 近
頃は政治に関係なく左寄りの方
が多いようですが」
「ナニは吹流しのように自由自
在だ」

たとえば、映画『ティラー・
オブ・バナマ』の仕立て屋ジェ
フリー・ラッシュと、客を装う
スパイ、ピアース・プロスナンは、
右のような会話をしつつ、お互
いの腹の探り合いをする。
ティラーが「右か、左か」を

聞くというのは都市伝説、とい
う評論家もいれば、はき心地の
よいトラウザーをつくるため
にやはり普段の定位置をお聞き
する、というティラーもいる。い
ずれにせよ、女には縁遠い会話
お仕立てスーツの世界、そこも
また、男の聖域かもしれない。

もちろん、妻や恋人が洋服店に
同行して服地選びをする、という
光景は、日本ではよく目にする。
が、これは日本男児がお手本にす
るイタリアやイギリスでは、あ
りえないことであるらしい。

「イタリアでは、女性を洋服屋に
連れてくる男は、嫌われます。男
の洋服は男が決めるもの、とい
うのが彼らの考え方です」と教え
てくれるのは、東京・銀座の高橋
洋服店社長、高橋純さんである。
でも、女性にうける服を選びたい
と考える男が、女性のアドバイ
スに耳を傾けるのは自然では？

Sanctuary of the Lost Samurai

中野香織の
“落日のマッチョ”

愛するマッチョは ひとりで仕立て屋に出す

筋肉と汗の匂いも良いけれど、
それが仕立ての良い服に包まれていれば
マッチョ度はさらにアップ。

Text by Kaori Nakano



© Brioni Archives

中野香織 (なかの・かおり)

服飾史家・コラムニスト。1962年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科
博士課程単位取得。英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆業に。最
新刊『着るものがない!』(新潮社)が好評発売中。

「イタリアの男だって、女性にモ
テるためにおしゃれをしますよ。
ただ、イタリアの男は、自分で自分
の服を、責任をもって選ぶ。その結
果、ホンモノの自信や着こなしが身
について、モテ
ることにつながる
のですね」
なるほど。
そういえば、ロ
ンドンのスー
ツの聖地、サヴィ
ル・ロウにも女性同伴の客の姿は
ほとんど見かけない。「男の服に
関して、女の口出しは無用」とい
う雰囲気が濃厚に漂う。



© IPJNET

男の世界。だからこそ、『ティ
ラー・オブ・バナマ』に出てくる
「たしかに、へおれ長いんだよ
へいつもと同じね」というあたり
よ、なんて話が始まることも」
お店とのつきあいの長さ自慢。
それってマッチョな男性にしほし
ば観察できる傾向のひとつかも？

洋服店もそうだが、ジェントルメ
ンズ・サロンのような働きをする
店もあるようだ。政治経済界で活
躍するお客さまも多い、老舗の高
橋さんのお店はいかがでしょうか？
「お客さまがぶ
らっとお立ち寄
りになることは
あります。店で偶
然会って、おやお
前もここか、おれ
はこの店長いんだ
よ、なんて話が始まることも」

に、男の美学はありますね」と高
橋さんは分析する。床屋と洋服屋
は「行きつけ」をもっていて、黙っ
ていても「いつもと同じ」に仕上
がるのがいい、というような。
ただし、そんな境地に至るには、
「最初の2、3着は月謝」とでん
と構えられる経済力、およびティ
ラーとの信頼関係を築いていく人
間力が試される。太っ腹な経済観
念、ティラーとの絆の尊重。スー
ツを「ファッション」とは別物に
するのは、こんな男っぷりだ。

「この前とは違う、新しいもの」
を常に求める続ける女とは、そこが
決定的に違いますね？
「でも、最近の若い男性に増えて
きたんですよ、新しい店で一着つ
くっては次の別の店に行く、ハス
タンブラーVが」と高橋さんは
ちょっと苦い顔。
「いつもの」をよしとするクラ
シックなスーツ界をぼんぼんとス
タンブラーVにしていく、いまだき
の若い男性。そのコントラストを
想像するについ笑みがこぼれてし
まうが(失礼!)、どっちにせよ、
男たちは「女性に好感をもっても
らいたい」との思いを心の片隅に
抱きつつ、新しい服をつくる。
その気持ちを嬉しく思うパート
ナーの大和撫子がすべきことは、
親身になって服地を選んであげる
ことではなく、「自分で選ばせ、
自信をもってもらおうこと」である
ようです。

(上) 映画『ティラー・オブ・バナマ』より。(下
右端) フィッティング中のクラーク・ゲブル
(1950年代)。(下右) ヘンリー・フォンダと
プリオーニの創業者の1人、ナツァレノ
フォンティコリ。(左) ピアース・プロスナンの
スーツを仕立てる、プリオーニのマスターテ
イラー、ケッキー・フォンティコリ(1995年)。
サヴィル・ロウ以外で初めてつくられたジェ
ームズ・ボンドのスーツがプリオーニ製という
話は有名。イタリアの最高級テイラー、プリ
オーニでは、創業当初からハリウッドの一
流スターたちがこぞって注文をしたという。



© Brioni Archives